

齊藤亮選手出場レース
第25回全日本マウンテンバイク選手権大会 ケミカルレポート

大会名：第25回全日本マウンテンバイク選手権大会

期日：2012年6月3日（日）

会場：長野県富士見パノラマリゾート

天気：晴れ時々曇り

気温：19.7℃

湿度：56%

ダート温度：27.8℃

グラス温度：21.9℃

競技種目：XCO 男子シニアエリート

4.0km×7周回（28.0km）

スタート：13：40

出場者数：65名

結果：3位

報告者：中村肇（株式会社ホルメンコールジャパン）



ホルメンコールバイクライン・ケアラインサポートの齊藤亮選手（MIYATA-MERIDA BIKING TEAM）。J2 緑山優勝、J2 菖蒲谷準優勝、ジャパンシリーズ開幕戦優勝、オリンピック選考会4位と、好調な滑り出しと安定感を見せてくれています。すべてのレースにおいてリザルトを残してくれるのはケミカルメーカーにとっては大きな信頼を得ることにつながります。今シーズン MIYATA-MERIDA BIKING TEAM に移籍した齊藤選手はホルメンコールケミカルの使用を継続。メリダチームのオフィシャルケミカルとしても採用されました。

今回の会場は昨年と同じ富士見パノラマスキー場。不安定な天気が続きましたが当日は晴れ、路面はほぼドライコンディション。今回の齊藤選手のケミカルコーティング&ケアは以下の通りです。

チェーン

[ライニガー](#)でチェーンを完全脱脂。[ケアフリース](#)で拭きあげます。今季から齊藤選手のメインコンポーネントはSRAM。SRAMのチェーンはパワーリンクを外すことで、ライニガーに浸してクリーニングできます。

拭きあげから15分ほど置いてチェーンコーティングを開始します。チェーンをセットした状態で行ないます。[ルーベンスピード](#)をチェーンの上下両方向から2周分程度スプレーし、下地を作ります。次に[ルーベエクストリーム](#)をチェーンのリンクの隙間に入るように注油。これは上下両方向から1周ずつ。ルーベンスピードをチェーンの上下方向からクランク5回転ほどスプレーします。これはスキーのワックスングで言うレーシングフィニッシュの効果を狙ったもので、ナノ粒子がチェーンの隙間にまんべん

く浸透することを意図したものです。[ルーベンスピード](#)を使用する工程は、通常のトレーニングや通常のコンディションでは省略しても構いません。[ルーベエクストリーム](#)単体で十分ナノコーティングの効力を発揮します。

オイルが飛び散らない程度の早さでクランクを前回り 30 秒、逆回り 30 秒程度回してなじませます。[ケアフリース](#)でチェーンを包んで持ち、クランクを回しながら拭き取れるところは完全に拭き取ります。外側に残ったオイルは汚れ付着の原因になってしまうので念入りに。チェーンの外側に[ルーベンスピード](#)をスプレーし、[ケアフリース](#)のきれいな面で軽く拭き取ります。[ケアフリース](#)に[スポーツクリーン](#)をしみ込ませ、チェーン外側を軽く拭き取ります。

スプロケット

カセットスプロケットはホイールから外し、[ライニガー](#)で完全脱脂します。その後[ダートプロテクター](#)をスプレーすることによって余計なごみや泥などが付着しにくくなります。完全に乾燥してから取り付けます。

スポークとリム

[ケアフリース](#)に[ダートプロテクター](#)をスプレーし、しみ込ませたもので拭きあげます。クランクやペダルなどのメタルパーツには直接スプレーしておきますが、クリートと接する面に付いてしまった場合は滑らないように[スポーツクリーン](#)を浸み込ませた[ケアフリース](#)で拭き取ります。

フレーム

[スポーツポリッシュ](#)のボトルをよく振ってから[ケアフリース](#)に適量取り、フレーム全体に塗り込みます。本剤が乾燥したら拭き取ります。次にアクアスピードも同じ工程で行ないます。塗り込みは[ケアフリース](#)で、拭き取りはマイクロファイバー製のクロスまたは人工セーム革で。その後同じ工程で[アクアスピード](#)を使用すると、ツヤと輝き、ほこりの付きにくさが持続します。

シューズ

今回は乾いた路面のため濡れることはなさそうでしたが、汚れ防止にもなる[ハイテクプルーフ](#)をスプレーします。足がシューズの中で滑ってしまわないように、斉藤選手はインソールを抜いた状態で手渡してくれます。前日の試走で汚れがひどい場合は、[シュークリーン](#)でのクリーニングが大きな味方になります。

ウェア

泥が跳ねあがるようなときや、降雨により体温が下がってしまうような場合は[ハイテクプルーフ](#)で仕上げますが、今回は何も不使用。事前に[テキスタイルウォッシュ](#)によって速乾性が向上している斉藤選手のバイクウェアは、快適性というアドバンテージを持たせてくれます。

降雨のひどいときやマッドコンディションのときは[ルーベエクストリーム](#)ではなく、[ナチュラルバイクルーベ](#)を使用するなど、コンディションによって多少の変更はあります。今回のほぼドライなコンディ

ションではこのようなケミカルコーティングを施しています。今回の富士見パノラマの土質は関東ローム層で細かい赤土。また当日は駐車してあるチームカーのボディーやウィンドウには目視で確認できるほどの花粉が飛散している状況でした。細かい粒子たちがオイル分を吸ってしまうと油膜切れの可能性があります。ルーベエクストリームはたっぷりと注油してなじませます。もちろん外側にしみ出たオイル分はしっかりと拭き取ります。

レース結果は3位。2位狙いとか表彰台確保という走りではなく、最後までトップを目指す走りでした。レース後のバイクはいつものように非常にクリーンな状態で帰って来ました。予想通り乾燥した土埃がチェーンからオイル分を吸収しています。しかし潤滑が必要なプレート同士の隙間にはしっかりと油膜がガードしていました。



乾燥した土埃はフレームにも付着しやすいのですが、アクアスピード仕上げのフレームにはほとんど付着が見られません。

齊藤選手のコメント

「レースでの僕の経験から、スポーツポリッシュ+アクアスピードの組み合わせはやはり最高です。コーナーやダンシング時にトップチューブに脚が触れてもツルっと気持ちいい程なめらかに滑ります。(生脚でも!) だから不意にライディング姿勢が崩れて脚が触れてしまった場合でも、ストレスを感じることがありません。そして滴り落ちる汗や糖度の高い補給ドリンクでも、アクアスピードでのコーティングは水滴痕が出来ません。

駆動系の潤滑だけではなく、ホルメンコールのケミカルにはまだまだ可能性を感じます。メーカー側もバイクライン・ケアラインの枠を超え、ウィンタースポーツ用やマリンスポーツ用のプロダクトも含めてテストしてくれています。柔軟な発想でこれからも進化すると思います。

僕も自分でメンテナンスするとき、メカニックとのミーティング、さまざまな場面でアイデアが浮かんでくるのでテストしています。今のままだも機材に不安がないという、大きなアドバンテージになっていますが、自分の走りの進化のために、これからもホルメンコールを選びます。」

MIYATA-MERIDA BIKING TEAM 齊藤亮

